

2 研究仮説のとらえ方

(1) 社会認識が深まり、自ら考え、判断する力が育成されるとは…

社会認識の深まりは概ね次のような手順によって獲得できると考える。

- ① 事実認識の獲得 ③ 主体認識の醸成
- ② 関係認識の形成

更にこうした手順が繰り返されることによって生徒は自ら考え、判断する経験を積み社会認識を深めていくことができるだろう。

(2) 「取材活動」で事実関係を把握させ、「紙面作り活動」で自分の立場で判断を加えさせ、「投書」や「読後討論会」の場で意見交換をさせればとは…

「歴史新聞」の作成と「読後討論会」をとおしてこのような社会認識の深まりを形成しようとするならば、主に次のような学習過程において各認識が形成されると考える。

- ① 事実認識の獲得…取材メモ作成
- ② 関係認識の形成…機関紙的紙面作り（選択した立場からの意見表明）、投書（他新聞への意見伝達）、読後討論会（討論による意見交換）
- ③ 主体認識の醸成…紙面作り、投書、読後討論会、社説（立場を離れた本当の自分の意見）

また各段階には到達基準を設定し、指導・援助を行うこととする。

III 研究の実際と考察

1 検証授業の単元

- (1) 明治政府の成立と諸改革の展開
- (2) 憲法の制定と議会政治の始まり

近くに福島事件の舞台となった「弾正が原」をひかえ、生徒の興味・関心が高い。明治政府の政策が討論の論題として成立する。

2 第1回検証授業（投書）

(1) 単元指導計画

段階	時数	学習課題	学習内容・活動●予想反応	社会認識
課題の把握	1	「君ならどうする新国家づくり？」 「開国後、政府はどんな国造りをするべきなんだろ？」 「一体どっちを優先させたらいいんだろ？」 「真実をさぐれ、さようから君は新聞記者だ」	・プリントで当時の内外の事実関係を概観しながら、「新政府に実行してほしいこと」が浮かんだらすぐにフリーカードにメモする。 ・フリーカードを参考に新政府への政策提案「明るい未来のための建白書」を書き「維新目安箱」へ投書する。 ●「早急な富国強兵策」と国民本位の政治の実現をあげるとに別れるだろう。 ・どちらかの立場を決定させ学習課題を設定する。 ・単元の学習計画を示し（学習計画表にて）「歴史新聞」の作成によって解決していく道筋をつかませる。	事実認識1 主体認識1
	2 3 4 5 6	五箇条の御誓文は実現したのか？ 「改革の成果と問題点を取材しよう。」 「国民を動かせ、君の新聞記事で」 「ちょっと待った、納得いかない君の記事」 【検証授業1】	①「取材メモ」に諸改革の内容をまとめる。（個別） ②「取材メモ」に基づいて、自分の選んだ立場から改革に対する主張が明確になるよう「歴史新聞」を作成する。（個別） ③お互いに読み合い、「投書」によって相手の新聞へ反論を加える。相手の論拠を知り、更に思考を深める。	事実認識2 関係認識1 主体認識2
解決	7	「トークバトルで決着つけよう」	○代表者が自分の立場で新聞をもとに主張する。その反対尋問を交えた討論を行う。討論をもとに「社説」に自分の考えをまとめ、張り出す。	事実認識3 関係認識2 主体認識3

(2) 検証の観点

① 自分の立場から他の考えに対して、明確な意思表示ができていないか。（改革を見つける視点をはっきりしており、取材メモが有効に働いていれば、主張のはっきりした歴史新聞ができていないはずで、そうであれば自信をもって投書に考えを表現できるだろう。）

(3) 検証授業の実際と考察

① それぞれ農民、町人、武士、新政府役人の立場から紙面を作成しているため相手の意見に明確に意思表示ができた。しかし感情的なものや根拠が明確にしないまま非難する者も少なくなかった。

② 新聞を前に討論らしきものが始まる場面もあった。また躊躇していた者もその輪に入り、意見を聞いたりする中で全員複数の新聞に